

すわみつえ通信

No.74 2019年5月27日(月)

日本共产党鴻巣市会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL : 596-9440 FAX : 507-4151
携帯 : 080-5039-2785
E-mail : mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで suwa-mitsue.jp/

ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

朝日新聞 5月9日付



小針クリーンセンター
(行田市)

「行田に再考を」 会議で石井市長

の日の会議で「新施設の整備費総額をまず明らかにすべきだ。それまで計画は一時的にストップし、小針を使うことも検討して欲しい」と持論を述べ、これに對して鴻巣市の原口和久市長は「予定通り進める」と説明したという。両市長が会議終了後に明らかにし

13名で全員出席。年度末にT-A会長などと交替があり、これまで新任の委員会が更してしまった。傍聴者は3人で未就学児を連れた方をいました。

鴻巣・行田・北本の3市でごみの広域処理をするために組織した鴻巣行田北本環境資源組合の正副管理者会議が24日、鴻巣市内で開かれた。3市の市長で構成される会議は同組合の「序議」一にあつり、通常は年3回を鴻巣市内に建設することを2015年2月に決めたが、「処理場は土地も購入している行田市の小針地区に造るべきだ」と行田市長選で主張した石井直彦氏が新市長に当選。石井氏は「

回の組合議会の直前に議会
対応などを調整するが、4
月の市長選で3人中2人が
交代したのを受け、臨時に
開かれた。

新規のみ処理施設は「行田市の小針」を行田市長選の最大の争点とした石井氏が行田市長となりました。

鴻巣・行田・北本の3市で進めてきた建設候補地は「鴻巣市の安養寺」への建設計画を見直し、「適切な規模と場所」で建設を求めていく機会です。

通学区域審議会を 傍聴して



アンケート結果など、資料の説明に45分間を要しました。

現在、笠原小が指定校となつてゐる安養寺地区では、通学区域彈力化で北小学校に通学している児童もあります。やうに中央小にも拡大する」と、地域で笠原小・北小・中央小と3校それぞれに通学する児童がいることになります。この先の中学校は北中・鴻巣中と2校に分かれます。



笠原小学校

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。
(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

川里「花久の里」バラづくし

大雨の翌日5月22日(水)に川里の花久の里でしばしバラの香りに包まれました。花祭りは終わっていましたが沢山の人出で賑わっていました。毎年、種類も数も増えしていく見じたえ十分。もちろん、川幅うどんもしつかりいただきました。



アベリア通りを清掃する すわ市議



A wide-angle photograph of a garden scene. In the foreground, a paved walkway leads towards a building. To the left, there's a raised garden bed filled with various flowers and greenery. A prominent feature is a large, arched wooden trellis covered in climbing roses, with pink blossoms in full bloom. The sky is clear and blue.

春のクリーン・鴻巣市民運動に参加

連印の〇〇%を超えて、夏を思わせな印へ印の朝、血治の跡れども地域の清掃に参加しました。庄んでこの町が綺麗になるのは嬉しいですね。

くよう言葉を磨く▼議員を「選良」と呼ぶのが、はばかられる昨日である。政治家がおかしくなったのか、録音が容易になり、元々のおかしさが露呈したのか。戦争で北方領土を取り返すのをよしとするような発言をする議員まで現れた▼その彼は周りから辞職を求められても、やめるつもりはないという。まさか「私のような議員にならないで」と、同僚たちに教え続けるためではあるまい。

2019 · 5 · 24

日新聞 5月24日付

天声人譜

あなたなら、どちらの言葉が
心に響くだろうか。A「ウソを

しんぶん赤旗 日曜版 5月19日

憲法記念日（3日）にあたる
り、各紙は「改憲」をどう論じ
たのでしょうか。

安倍晋三首相は、改憲派集
会（3日）に「令和元年」という
新たな時代のスタートラ
インに立って、この国の
未来像について、真正面
から議論を」との改憲推進の
メッセージを出しました。

「朝日」社説（4日付）は「改
元と改憲には何の関係もな

しんぶ
「朝日」社説(4月14日)は「改元と改憲には何の関係もない。祝賀ムードを利用して改憲機運をあおるのは敵に慎むべきだ」「変えるべき戦後システムは憲法ではなく、むしろ地位協定」と批判。同紙世論調査(3月付)では、「改憲機運

があるのか」と指摘。「毎日」(同)も「自民党の孤立が目立つ」「意欲とは裏腹に議論は停滞」「焦る西田は迷走気味だ」と強調します。

地方紙はさらに明確。沖縄タイムズ社説(同)は「沖縄にとって切実なのは地位協定の抜本的な改定である。9条改正よりも国内法の原則適用を

（前略）など安倍改憲への批判が目をひきました。憲法改正論議の中心は、9条（「読売」3日付社説）とか、「まず自衛隊明記が必要」（「産経」3日付主張）といふ改憲推進の論調は、いわば少數派です。この世論の現状を、安倍政権は厳爾に受け止めねばなりません。（しらが・ゆりこ＝弁護士）

「高まります」72%　9条「変らない方がよい」64%と安倍の
条改憲に多数がNOなので
す。

急ぐべきだ」といふある。
各地方紙の社説(同)でも、「政権の独走戒めるのは誰か」((京都)、「新時代イコール改革」とは、留名)と過激の一